

目的	目標	対象—目標	
<p>読書活動を通じて実現したい子どもの育ちのあり方</p> <p>本等を活用して、自ら主体的に思考する人に育つ</p> <p>○情報化が進展するなか、今度ますます予測困難な時代となっていくます。</p> <p>○そのなかにあつて子どもたちには、社会の変化に主体的にかかわり、「よりよい社会と幸福な人生の創り手」^{※1}となることを期待されます。</p> <p>○そのために必要な資質・能力のひとつが「知る」ことです。</p> <p>○多様で豊かな情報環境を活用し、状況に応じて必要な知識・情報を得て、精査しなければなりません。</p> <p>○そして、それら知識・情報を状況に適應させ、社会における自らの判断や行動の支えとして主体的に人や社会に関わろうとする姿勢も必要です^{※2}。</p> <p>○このように、本等を活用して、自ら主体的に思考することができる人に育ち、ひいては豊かな人生を過ごし、そして豊かな社会をつくる担い手となることを目的として、読書活動推進に取り組みます。</p>	<p>本計画において子どもにもたらしたいこと</p> <p>成長の過程で読書習慣を身につける</p> <p>○読書活動は、「読解力や想像力、思考力、表現力等を養うとともに、多くの知識を得たり、多様な文化を理解したりすることができるようになる」^{※3}ものです。</p> <p>○本区においても、年齢に応じた読書活動を通じて、語彙や読む力、伝える力を育み、想像力や知的関心を広げ、子どもの育ちを支えます。</p> <p>○それとともに、本区では読書習慣を「知識・情報を得るために本等を読み、インターネット等の情報環境も併せて活用する姿勢」と定義し、読書活動を通じてその姿勢を育てていくことを目指します。</p> <p>○子どもたちが読書を楽しむなかで、また情報環境を活かした学びを続けるなかで、読書の楽しさや有用性を感じるとともに、「知る」ためのスキルを身につけていくことで、これからの社会を生き抜くために必要となる「知る」ための資質・能力を伸ばしていくことを目指します。</p>	<p>対象</p> <p>未就学児</p> <p>小学生</p> <p>中学生</p> <p>高校生</p> <p>大学生</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">読むことと困難さがある子ども</p>	<p>対象別目標</p> <p>—</p> <p>○言葉を次第に獲得する</p> <p>○絵本や物語に興味を示すようになる</p> <p>○絵本や物語の世界を楽しむようになる^{※4}</p> <p>○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(「数量・図形、文字等への関心・感覚」、「言葉による伝え合い」、「豊かな感性と表現」を育む^{※5}</p> <p>○(低学年)読書に親しみ、いろいろな本があることを知る</p> <p>○(中学年)幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づく</p> <p>○(高学年)日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気づく^{※6}</p> <p>○(1年生)読書が知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解する</p> <p>○(2年生)本や文章などには様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かす</p> <p>○(3年生)自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解する^{※7}</p> <p>○実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深める</p> <p>○新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深める</p> <p>○自分の思いや考えを伝える際の言語表現を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める^{※8}</p> <p>—</p> <p>読書の楽しさ・有用性</p> <p>—</p> <p>「知る」ためのスキル(情報活用能力)</p> <p>—</p> <p>読むことに困難さがある子どもに対する目標</p> <p>○「文字を見ることに困難さがある」「文字が見えにくい」「文字を見ることができず、意味をつかみにくい」「聞こえづらい、聞こえにくい」「(介助がないと)移動しづらい」「外国語母語で日本語を読むことに困難さがある」等の、読書に対する困難さの違いに応じて、どのような課題やニーズがあるかを把握する。</p> <p>目標へ到達するための視点</p> <p>(1)読むことに困難がある「ひとりひとり」の子どもが直面している困難への配慮</p> <p>(2)子ども自身による読書手段の選択への支援</p> <p>(3)困難さの「違い」に応じたニーズや課題の把握</p>

※1 中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」より引用／※2 新学習指導要領における「生きる力」を参照／※3 子どもの読書活動の推進に関する法律より引用／※4 第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」より引用／※5 「幼稚園教育要領」を参照／※6 「小学校学習指導要領(平成29年)解説 国語編」より引用／※7 「中学校学習指導要領(平成29年)解説 国語編」より引用／※8 「高等学校学習指導要領(平成29年)解説 国語編」より引用／※9 中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」別紙より引用

品川区子ども読書活動推進計画 骨子案(2/3)

目的	目標	対象—現状—課題			
<p>本等を活用して、自ら主体的に思考する人に育つ</p> <p>成長の過程で読書習慣やリテラシーを身に付ける</p>		対象	子どもの読書やインターネット利用の現状		課題
		未就学児	<ul style="list-style-type: none"> ○未就学児の頃に読み聞かせをしていた家庭(現在1～4年生の子どもがいる家庭)は88.4% ○1～4年生の保護者のうち本を読む人は68.5% 	—	<ul style="list-style-type: none"> ○読み聞かせを行わない家庭をなくす ○保護者に対して子どもの読書活動の重要性を理解するよう促す ◇図書館を積極的に活用してもらう
		小学生	<ul style="list-style-type: none"> ○本を読むことが好きな1～4年生は80.7%、5年生は83.3% ○過去1か月に本を読んだ1～4年生は88.2%、5年生では91.7% ○自分から本を読んだ5年生は77.0%、一方で普段から読まないという5年生は3.9% ○本を読む苦手だから過去1ヶ月に本を読まなかった5年生は2.6% ○1年間で区立図書館を利用した1～4年生は60.4%、5年生は43.3% ○学校図書館を利用しなかった5年生は7.9% 	<ul style="list-style-type: none"> ○検索サイトを利用した5年生は40.7% ○(紙の)事典・図鑑で調べごとをした5年生は25.4%、インターネット上の事典・図鑑を使った5年生は21.9% ○何かを調べるときに事典・図鑑を使う5年生は59.0%、インターネットは52.7%、本や雑誌は20.6% 	<ul style="list-style-type: none"> ○本を読むことが好きな子どもを増やす ○本を読むことが苦手だと感じる子どもを減らす ○読書の有用性(知識・情報の入手など)に気づくように促す ◇学校図書館などを通じて、ニーズの把握を図る ◇様々なメディアがあることを理解する ◇技術発展に即した対応ができるようにする
		中学生	<ul style="list-style-type: none"> ○本を読むことが好きな8年生は69.8% ○過去1か月に本を読んだ8年生は72.2% ○自分から本を読んだ8年生で53.2%、一方で普段から読まないという8年生は15.5% ○本を読む苦手だから過去1ヶ月に本を読まなかった8年生は9.1% ○1年間で区立図書館を利用した8年生は29.5% ○学校図書館を利用しなかった8年生は35.3% 	<ul style="list-style-type: none"> ○検索サイトを利用した8年生は65.9% ○(紙の)事典・図鑑で調べごとをした8年生は47.1%、インターネット上の事典・図鑑を使った8年生は23.3% ○何かを調べるときに事典・図鑑を使う8年生は29.5%、インターネットは86.2%、本や雑誌は16.4% 	<ul style="list-style-type: none"> ○本を読むことが好きな子どもを増やす ○本を読むことが苦手だと感じる子どもを減らす ○読書の有用性(知識・情報の入手など)に実感するように促す ○問題の発見・解決を学ぶなかで、様々なメディアを用いた調べ方を身につける ◇学校図書館などを通じて、ニーズの把握を図る ◇技術発展に即した対応ができるようにする
		高校生	<ul style="list-style-type: none"> ○本を読むことが好きな高校2年生は73.9% ○過去1か月に本を読んだ高校2年生は60.4% ○自分から本を読んだ高校2年生で47.9%、一方で普段から読まないという高校2年生は17.2% ○本を読む苦手だから過去1ヶ月に本を読まなかった高校2年生は7.4% ○1年間で区立図書館を利用した高校2年生では31.9% ○学校図書館を利用しなかった高校2年生は39.9% 	<ul style="list-style-type: none"> ○検索サイトを利用した高校2年生は87.3% ○(紙の)事典・図鑑で調べごとをした高校2年生は31.7%、インターネット上の事典・図鑑を使った高校2年生は58.9% ○何かを調べるときに事典・図鑑を使う高校2年生は29.6%、インターネットは97.0%、本や雑誌は21.3% 	<ul style="list-style-type: none"> ○本を読むことが好きな子どもを増やす ○本を読むことが苦手だと感じる子どもを減らす ○読書の有用性(知識・情報の入手など)に実感するように促す ○問題の発見・解決を学ぶなかで、様々なメディアの特性を理解し、選択できるようにする ◇困難さをサポートする人や団体を知ること、「読むこと」に関してより活発な行動が行うことができるようにする
		大学生	—	<p>5・8年生、高校2年生に共通した特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本を読む好きな子どもや過去1か月に本を読んだ子どもは、そうでない子どもに比べて調べるときに事典・図鑑、本・雑誌などを利用している ○電子メディア利用でも、ネット上の事典・図鑑を利用しており、ウェブ上の新聞や雑誌のオンライン版を読んでいる傾向も見られる 	—

読書の現状

インターネット利用の現状

◇は読むことに困難さがある子どもを対象とした課題

品川区子ども読書活動推進計画 骨子案(3/3)

目的	目標	対象—取組方針—施策—取組			
		対象	取組方針	施策	取組(案)
本等を活用して、自ら主体的に思考する人に育つ	成長の過程で読書習慣やリテラシーを身に付ける	未就学児	方針① 読書の楽しさを伝える ○読書に親しみ、興味・関心を高め、楽しいものだと思うようになるための取組	施策1(未就学児) 本に触れ、言葉・物語への関心を高める	<ul style="list-style-type: none"> ◆家読 ◆読書への道しるべ ○読み聞かせ ○読書時間 ○本のスペースを設けている ○保護者への本の紹介 ○図書館へ訪問 ○図書館資料の借用 ○本の貸し出し ○保護者向け講座 ○定期的な絵本の入れ替え ◇発達段階や困難の程度に応じた読み聞かせ ○「はじめての よんで よんで」 ○おはなしかい ○グローバルおはなしルーム ○てづくり会 ○イクメン読み聞かせ ○おすすめ本リストの発行 ○としょかんスタンプラリー 等 ◇バリアフリーおはなし会など イベント開催 ◇自宅などへの配本 ◆保護者への啓発(012歳おはなし会時、図書館紹介、おすすめ本紹介) ◆土・日・祝日の行事開催 ◆さわる絵本の収集 ◆読書ノート ◆家読の啓発(一日5分の図書タイム) ◆読み聞かせボランティアの活用 児童センター ○共催事業(人形劇、絵本講座等) ○本のスペースを設けている ○絵本作家の講座 ○読み聞かせ ○保護者向け講座 ○保護者向け本の紹介 ○図書館へ訪問 ○読書の時間
		小学生	読むことに困難さがある子ども	施策2(小学生) 本に親しみ、読書習慣を身につける	<ul style="list-style-type: none"> ◆家読 ◆読書への道しるべ ○学級文庫の設置 ○学校ごとのおすすめ本 ○公共図書館との合同スタンプラリー ○読書マラソン ○ペア読書 ○図書館との連携事業 等 ◆資料収集 新聞 ◇発達段階や困難の程度に応じた読み聞かせ ◇タブレットを使ったデータの提供 ○おはなしかい ○グローバルおはなしルーム ○てづくり会 ○科学あそび教室 ○新聞発行 ○一日図書館員 ○としょかんスタンプラリー 等 ◇バリアフリーおはなし会など イベント開催 ◇自宅などへの配本 ◆読書ノート ◆モデル校と連携し、ピブリアバトルのワークショップ開催 ◆学校図書館との連携(相互情報共有・調べ学習支援等) ◆資料収集 調べ学習資料(最新版の確保)・地域資料・英語資料 ◆啓発(一日5分の家読) 児童センター ※施策1と同様 すまいるスクール ○読み聞かせ ○読書の時間 ○本のスペースを設けている ○学校図書室利用 ○学習タイムに読書
		中学生	方針② 「知る」ためのスキルを身につける ○本にくわえて、図鑑・事典、インターネットなどメディアを通じて知識・情報を得ることや、取捨選択するスキルを身につけるための取組 ○個々のメディアの特性を理解し、使い分けるスキルを身につけるための取組	施策3(中学生) 自ら学び、調べる力を身につける	<ul style="list-style-type: none"> ◆家読 ◆読書への道しるべ ○空き教室を活用した移動図書館 ○図書館マイレージ ○本の福袋 ○「1UP 上をめざせ」 ○図書館職員による職業紹介 等 ◇タブレットを使ったデータの提供 ○職場体験受入 ○新聞発行 等 ◇ネットからの資料予約 ◇自宅などへの配本 ◆ティーンズ担当の配置 ◆コーナーの拡充・充実 ◆HPにコーナーの開設 ◆漫画等収集方針の見直し ◆ティーンズデーの設定 ◆ティーンズの選定基準の作成 ◆パスファインダーの作成 ◆読み聞かせ ◆資料の収集(修学旅行等調べもの資料の充実、英語資料の充実、郷土資料の充実) ◆イベントの開催 ◆フェイスブックの活用(SNS・スマホ・IT等の活用) ◆児童センター等地域施設との事業や本等のPRの連携の強化 ◆家読への啓発 ワークショップでの主な提案 ◆映画や漫画の原作になった本の配架 ◆授業や教科書で紹介された本を紹介 ◆短編集や読みやすい本の紹介 ◆年齢にあわせた本の紹介を図書館の目立つところで実施 ◆自分で読みたい本などを探せる仕組みのアプリなどの作成 ◆閉館後のイベント、ナイトライブラリーの開催
		高校生		施策4(高校生) 情報環境を活用し、調べ、考える力を養う	<ul style="list-style-type: none"> ◆家読 ◆読書への道しるべ ○ピブリアバトル ◇タブレットを使ったデータの提供 ○部活動(文化系)との連携(作品展示、部活動の紹介、図書委員と連携したおすすめ本展示) 等 ◇ネットからの資料予約 ◇自宅などへの配本 ○区内大学のサークル活動の発表(落語会) ○大学保有の写真資料の展示 等
		大学生		施策5(大学生) 社会参画のためのリテラシーを養う	<ul style="list-style-type: none"> ○区内大学のサークル活動の発表(落語会) ○大学保有の写真資料の展示 等

○=既存の取組
 ◇=読むことに困難さがる子どもを対象とした取組
 ◆=新たに検討している取組(案)

家庭
園・学校
区立図書館
地域